

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）  
ライフスタイルに着目した慢性腎臓病（CKD）対策に資する研究

分担研究報告書

CKD 患者・家族向けの治療と仕事の両立支援ツールに関する研究

研究代表者：中川 直樹 国立大学法人旭川医科大学・医学部・教授  
 研究分担者：福井 亮 東京慈恵会医科大学・腎臓・高血圧内科・講師  
 研究分担者：岡田 浩一 埼玉医科大学・医学部・教授  
 研究分担者：要 伸也 杏林大学・医学部・腎臓・リウマチ膠原病内科・客員教授  
 研究分担者：須賀 万智 東京慈恵会医科大学・環境保健医学講座・教授  
 研究分担者：祖父江 理 香川大学・医学部循環器・腎臓・脳卒中内科・講師  
 研究分担者：内田 明子 医療法人社団クレド・さとうクリニック・学術部・総括部長  
 研究分担者：石川 祐一 茨城リサ教大・生活科学部食物健康科学科・教授  
 研究分担者：高井 奈美 名古屋大学医学部附属病院・看護部・看護師  
 研究分担者：水野 智博 藤田医科大学・医学部薬物治療情報学・准教授

研究要旨

「治療と仕事の両立お役立ちツール」を作成し、研究班のホームページや関連学会のホームページ等において、患者及び国民に広く普及する。さらに、普及・啓発活動、療養指導等に活用する。

A. 研究目的

「治療と仕事の両立お役立ちツール」を作成し、CKD 患者の適切な管理により CKD ステージの進行を遅らせ、なるべく長い間、社会参加が可能な状態を維持し、透析患者・腎移植患者の社会参加を可能にするツールとして活用され、CKD 患者（透析患者及び腎移植患者を含む）の就労者数増加や復職率向上に寄与することを目指す。

B. 研究方法

- ・CKD 患者の両立支援に有益な情報を収集し、課題を抽出する。
- ・復職・新規就労に有用な機関・制度、有用な社会制度についての取りまとめを行う。

（倫理面への配慮）

該当なし

C. 研究結果

1) CKD 患者を対象とした既存の就労支援関連資料においては、維持透析患者や腎移植後患者への医療上の注意点や障害認定情報等が主であり、保存期 CKD 患者向けの就労上の注意点や医療費に関する情報は不足していた。

2) CKD の原疾患として高頻度なもののうち、糖尿病と難病については、既に患者向けの両立支援資料が作成されているが、高齢化などにより近年増加傾向である高血圧を背景とした CKD に関する情報は不足していた。

3) CKD および治療と仕事の両立支援に関する情報サイトを以下のように整理した。

名称	概要
一般社団法人日本腎臓学会 一般のみなさまへ	CKD に関する主な疾患や治療法、日常生活での注意や気になる症状や検査の結果が出た際の対処法などの情報提供が行われています。 ※詳細は下記 URL をご参照ください。 ( <a href="https://jsn.or.jp/general/">https://jsn.or.jp/general/</a> )
一般社団法人日本腎臓学会 腎臓専門医名簿	腎臓専門医を氏名や都道府県、勤務地で検索できます。受診勧奨先として下記 URL をご参照ください。 ( <a href="https://jswwi31.jsn.or.jp/jsnpuh/list/senmon">https://jswwi31.jsn.or.jp/jsnpuh/list/senmon</a> )
特定非営利活動法人 日本腎臓病協会	CKD の予防や治療法、ダウンロード資料集などの情報提供が行われています。 ※詳細は下記 URL をご参照ください。 ( <a href="https://j-ka.or.jp/">https://j-ka.or.jp/</a> )
特定非営利活動法人 日本腎臓病協会 腎機能をチェックしましょう	血清クレアチニン値から算出される GFR 値を知ることができます。 ( <a href="https://j-ka.or.jp/ckd/check.php">https://j-ka.or.jp/ckd/check.php</a> )
特定非営利活動法人 腎臓サポート協会 腎臓病なんでもサイト	CKD から透析・移植期までのいろいろな情報が発信されています。(https://www.kidneydirections.ne.jp/)
厚生労働省 治療と仕事の両立支援ナビ	治療と仕事の両立支援について、支援者(人事労務担当、上司・同僚、産業保健スタッフ、経営者)等への情報提供が行われています。 ( <a href="https://chiryoutoshigoto.mhlw.go.jp/">https://chiryoutoshigoto.mhlw.go.jp/</a> )

D. 考察

CKD は原疾患や臨床経過が様々であることにより、利用可能な制度等も様々である。患者・家族向けには特に、維持透析患者や腎移植後患者に対する障害認定の情報、保存期 CKD 患者に対する指定難病や高額療養費制度に関する情報等が必要と考えられる。患者会等の意見を参考にしながら、必要な情報がワンストップで得られる資料を作成することが有用と考えられた。

## **E. 結論**

社会参加継続および復帰を可能にするツールとして活用され、CKD 患者が自らの状態を理解し、主体的に治療と就労に取り組むことに繋がり、CKD 患者の就労者数増加や復職率向上に寄与することが期待される。また、CKD 患者の適切な治療により CKD 重症化予防にも貢献し、透析導入減少にも資することが期待される。

## **G. 研究発表**

1. 論文発表  
なし

2. 学会発表  
なし

## **H. 知的財産権の出願・登録状況** (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし